序

拠点リーダー　福田アジオ

2003年７月に、かねて申請しておりました「人類文化研究のための非文字資料の体系化」が21世紀ＣＯＥプログラムに採択されたという通知があり、研究計画を構想し、申請書を作成してきた者はもちろんのこと、神奈川大学の多くの関係者がその朗報に接して喜ぶと同時に、それから開始しなければならない事業展開の重みに緊張したことを、つい先日のことのように憶えています。それから４年半がたちまちに過ぎ去りました。そして、ここに研究成果をまとめて世に問う時期が参りました。

私どものプログラムは、「人類文化研究のための非文字資料の体系化」と題するように、文字では表現されない、記録されない非文字の事象を資料化して人類文化研究に役立つように提供しようという研究計画です。文字化されて残されているものや日々文字化されて表現されている事象は容易に把握できますが、非文字の事象は無限にあり、また非文字であることにより掴み所がありません。それを資料化する方法を開発し、それによって資料として定着させ、人類文化研究のために発信するということが基本的な目標でしたが、加えて様々な非文字資料を統一的に把握するという体系化をも目指していました。限られた５年間で、非文字資料すべてを取り上げ、体系化に迫ることはほとんど不可能であることが研究計画作成段階から分かっておりました。申請時の研究計画書に記載しましたように、私たちは長年の実績を基礎に、図像、身体技法、環境・景観の三つに絞って取り上げ、それぞれの資料化の方法を検討し、またその分析法を開発し、成果を広く世界に情報発信することにしました。図像、身体技法、環境・景観それぞれについての体系化を試み、それらを情報発信していく段階で統合し、体系化することを構想しました。そのために、統合と体系化、そして情報発信を課題とする研究グループを当初から設定しておりました。

私どものプログラムは、「学際・複合・新領域」の分野に申請して採択されたものです。非文字資料の体系化はこの分野に相応しい研究プログラムだと認定されたのだと思います。「学際・複合・新領域」分野で採択されたプログラムの多くは、自然科学に傾斜した課題が多く、社会・人文科学系の課題は余りありませんでした。その点でも期待されるところが大きかったと今も思っています。21世紀ＣＯＥプログラム全体がそうでしたが、共同研究方式で多くの研究者を結集して、そこに研究成果をあげるということが想定されていたと思います。殊に「学際・複合・新領域」では、文字通り様々な分野・領域・方法の研究者が集い、共同して新たな研究を展開することが大いに期待されたと思われます。民俗学、文化人類学、歴史学を中心とした私どもの研究プログラムも、学際的な共同研究を目指しました。もともと人文系の研究者にとって、研究は個人で行うものであり、研究の過程、方法を共同にし、成果を共同であげることには馴染んでいませんでした。本プログラムに集った研究者も多くが同様でした。出発当初は共同研究方式に様々な不協和があり、円滑に進みませんでした。しかし、２年、３年と経過する中で研究を共同し、成果も共同で出すということに次第に慣れ、結果としてすでに刊行した20冊近い成果報告書が共同研究としての成果を如実に示しております。人文系のプログラムとして、これほどの共同研究成果を世に送ることができたことを誇りにしたいと思います。それに邁進された研究担当者の皆さんのご努力に深く感謝いたします。

21世紀ＣＯＥプログラムは、大学院博士課程もしくは付置研究所が申請するものであり、私どものプログラムは日本常民文化研究所、大学院歴史民俗資料学研究科、大学院外国語学研究科中国言語文化専攻の三つが共同して申請したものです。20名の研究者が事業推進担当者として研究を担いましたが、幅広い内容を研究し成果をあげるために、学内外で実績を積んでいる研究者の支援を求め、共同研究員として参画していただき、事業推進担当者と一緒になって研究を進めていただきました。また本プログラムが独自にＣＯＥ教員を採用し、本プログラムの推進に貢献していただきました。共同研究員やＣＯＥ教員の皆さんの力が成果をあげるに際して大変大きなものでありました。さらに必要に応じて、調査研究協力者に多くの研究者をお願いして、研究を支援していただきました。皆さん快く加わって、研究を進めて下さいました。皆様の参加・協力があってはじめて目標を達成できたと、心から感謝申し上げます。

21世紀ＣＯＥプログラムは大学をあげての取り組みとして期待され、それに対応する計画として申請されました。もちろん私どものプログラムも神奈川大学学長からの申請でありました。プログラム計画の作成段階から、本プログラムに理解を示され、種々ご配慮くださった申請時の山火正則学長、それを引き継いだ中島三千男学長に篤くお礼を申し上げます。また５年間にわたり事務を円滑に進めて下さった学長室の皆さん、特にＣＯＥ支援事務室の皆さんに、大変なご苦労をおかけしたことをお詫びしつつ、改めてお礼を申し上げます。また、さまざまな機会に温かい声援を送って下さった神奈川大学の教職員の皆さんにも感謝申し上げます。